

令和 5 年度事業報告



N P O 法 人 共 働 の ま ち 大 野 城
令和6年5月

令和5年度を振り返って

令和5年度は『全員活躍』をテーマとし研修や資格取得、新規事業考案に向けた多様なアイデアの創出など、職員それぞれの個性や特性を活かし活動を進めることができました。

また、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更になり“ウィズコロナ”から“アフターコロナ”に転換した年でもありました。この3年間で地域活動の形態も大きく変化し、地域課題は複雑化・複合化しており、解決に向けては地域や多様な機関・関係者の連携の必要性が大きく問われております。

今後も職員各々が常に変化への対応策を考えながら更なる進化を目指します。引き続きあたたかいご支援・ご協力をいただけますと幸いです。

令和6年4月

NPO法人 共働のまち大野城
理事長

穴井 芳春



団体概要

名 称 NPO法人共働のまち大野城
設 立 平成31年4月1日
所在地 福岡県大野城市南ヶ丘5丁目9番1号





1. 使ってバンク「暮らしのサポート事業」

令和5年度 事業計画

- Plan -

- ▶ おタスケさん交流会を開催し、おタスケさんの相互交流を深める。
- ▶ 地域活動の意欲向上並びに、共助意識を醸成する。
- ▶ 事業説明会の実施及び地域イベントにて事業周知を行い、おタスケさん（担い手）の発掘に努める。

事業報告

- Report -

活動件数
目標1,800件

1,954件

前年1,988件

達成率**108%**



◆ふくしフェスティバルにて事業PR

- ・ 事業説明会（13 回実施）やふくしフェスティバルに出店参加し、事業について約 **200** 人に周知することができた。当日 40 代、50 代の **2** 名がおタスケさんに登録し、参加目的である若い世代へ向けた事業周知及びおタスケさんの獲得につながった。
- ・ 周知啓発活動を **60** 回実施したことで、新規利用者が **166** 名と昨年度（139 名）より **27** 名増えた。

各地区おタスケ
さん登録者内訳

南地区

70 名

（70 名）

中央地区

55 名

（50 名）

東地区

35 名

（43 名）

北地区

39 名

（50 名）

総数

199 名

（213 名）

（）は令和4年度

- ・ 「おタスケさんアンケート」の実施や『おタスケ新聞』（年 **2** 回発行）及び「おタスケさん交流会」（計 **8** 回）を実施し情報提供を行うことで、現状や課題が共有でき、おタスケさんの活動意欲向上につなげることができた。



◆各コミおタスケさん交流会の様子

◆おタスケ新聞（210部 年2回発行）



◆活動の様子

◆ありがとう券のお渡し

◆活動の様子

- ・未活動のおタスケさんを洗い出し、活動回数に隔たりがないよう声掛け月間を実施したことにより、おタスケさん全員に依頼の声掛けができた。
- ・「職員マニュアル」や「FAQ」などを見直し職員の意思統一を図ったことで、よりスムーズな相談対応ができるようになった。

2. 市民公益活動促進プラットフォーム

令和5年度 事業計画

- Plan -

- 引き続き登録団体のサポートを行い、地域活動の活性化及びポータルサイトの活用促進を図る。
- 事業活性化を図る為に、モデル団体の成果や課題を分析しコーディネートを行いながら運用面での充実を図る。
- 団体の交流を重視した連絡会議の開催。

事業報告

- Report -

公益活動登録件数 目標6,000件	まどぶら登録者数 目標5,500名	ポイント付与数 目標25,000件
5,802件 前年5,392件 達成率 97%	6,254名 前年4,995名 達成率 114%	26,786件 前年24,712件 達成率 107%

公益活動登録件数は目標に届かなかったが、小・中学校や区での説明会を実施し、まどぶら登録者数の目標は達成することができた。1人当たりのポイント付与数が前年度の4.9ptから令和5年度4.2ptと下回っており、活動の活性化及び活動登録の充実化が課題であるため、団体のフォローと周知啓発を強化していく必要がある。

モデル団体のフォロー

昨年度に続き、活動のブラッシュアップと運用面の充実を図ることを目的とし、モデル団体の支援を行った。今年度は団体の活動内容の充実に取り組み、これまで主に活動登録を行っていた「一斉清掃」以外の活動も活動登録を行っていくことで、新たな参加者の増加につながった。また、昨年度は未実施であったポータルサイトでの「協力スタッフ募集」や、コミュニティ通信・SNSでの広報を併せて行い、事業の認知度向上に努めたことで、昨年度に比べ活動やイベントの参加者が増加した。特にコミュニティ通信やSNSでの広報の際は、まどぶらポイント対象の活動であることをアピールしてPRを行ったことで、昨年度に比べポイント付与者も10名近く増加した。制度そのものの理解や端末の使い方等に関しては、新代表者へプラットフォームについての説明を行うとともに、活動前の活動登録や仮ポイント券の発行などのフォローを行った。



学校・区との連携

ボランティア講座			
R5年5月	大野東中学校	709名	全校生
6月	大野南小学校	135名	3年生のみ
7月	御陵中学校	347名	全校生
地域の清掃活動			
6月	大野南小学校	135名参加	3年生のみ
6月	平野中学校	336名参加	1年生のみ
キットパスアート			
R6年1月	平野中学校	20名参加	南コミュニティセンター内

合計

1,682名

の小・中学生
が参加



◆大野南小学校地域活動

学校及び区との連携について、地域行政センターと密に情報共有を行い、校長会を通じ市内の全小・中学校に事業の周知を行うことができた。3校で実施したボランティア講座では多くの生徒が興味を示し、小学生から10代までの個人登録が**382**名増加し、講座の目的である若い世代への公益活動のきっかけづくりにつなげることができた。一方で登録した子どもたちが継続して参加できる活動が少ないことが現状の課題であり、区や団体との連携を強化し活動の活性化、見える化の工夫が必要である。

		組長会
		組長会
		組長会
		組長会
		組長会
		組長会
6/3	◆牛頸区説明会	組長会
6/		組長会
9/		組長会
10/		組長会
10/		組長会
10/		組長会
12/		組長会

◆瓦田区説明会

プ

ラットホーム連絡会議の開催

連絡会議では、団体同士の交流をより深める場となるよう「地域活動団体交流会」と親しみやすい名前を追加し、**42** 団体（**51** 名）が出席した。グループワークでは、プラットフォームに関する〇×クイズを実施し、事業への理解をさらに深め興味を持ってもらえるように工夫した。また実際にタブレットを使用した活動登録の実践や、意見交換と発表などを通じ団体同士の交流を深めることができた。



◆連絡会議の様子



◆連絡会議での交流会

3. サロン事業

令和5年度 事業計画

- Plan -

- ニーズに応じた情報発信を行い、参加者の増加を図ることで地域住民の居場所づくりとして事業を展開する。
- サロンボランティアが地域で活躍できるよう、担い手発掘及び育成の仕組みを構築する。
- サロンボランティアとの連携を密に行い、活動の活性化を図る。

事業報告

- Report -

サロン数

目標21サロン

24サロン

達成率**114%**

新規ボランティア数

目標10名

27名

前年17名

達成率**270%**

サロン参加者数

目標4,200名

6,087名

前年6,284名

達成率**145%**



- ・チラシ変更や手引きの見直しを行い新規サロンの募集を広く行った結果、「とっても簡単Instagram」や「みんなで麻雀」など、高齢者や子育て世代まで幅広い年齢層の方が参加できるサロンが増えた。それに伴い、新規ボランティアも**27**名増え、サロン事業の目的でもある地域活動の担い手発掘につながった。
- ・周知啓発に関しては、毎月“P Sカレンダー”をHP掲載と館内掲示した。また各公民館へも掲示の依頼をし、デジタルが苦手な方にも情報が届くよう発信したことで参加促進につなげることができた。



◆北コミ「みんなで麻雀」



◆P S カレンダー

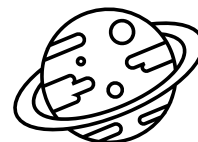
活動場所の提供

生け花サロン「花とのひと時を楽しみましょう」は、東コミュニティセンターで開催したイベント『お仕事体験』に参加し、子どもたちに生け花の先生体験を実施した。サロンボランティアがサロン以外でも活躍できる場を提供し、活動の幅を広げるサポートを行った。



◆「お仕事体験」にて
【花とのひと時を楽しみましょう】

4. 天体観測事業



令和5年度 事業計画

- Plan -

- ▶晴天時のイベントのみならず曇天時の室内イベントを開催することで、来館者の増加を図る。
- ▶事業を通してボランティア同士の交流を図ることで、担い手の育成及び活躍の場を提供する。
- ▶さまざまなイベント（おおの山城大文字まつり・産業展等）に積極的に参加し、広く市民へ「スタードームまどか」を周知していく。

事業報告

- Report -

参加者数

目標4,500人

3,943人

前年4,410人

達成率**87.6%**

新規ボランティア数

目標2名

6名

前年2名

達成率**300%**

観望日時	対象天体	観望場所
10月24日(日) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台
10月25日(月) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台
10月26日(火) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台
10月27日(水) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台
10月28日(木) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台
10月29日(金) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台
10月30日(土) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台
10月31日(日) 18:00~20:00	天の川、星雲、星団	大野城市立天文台

◆天体スケジュール

おおの山城大文字まつりと産業展等大野城市主催のイベント来場者が前年と比較して減少したこと、天候不良により太陽観測会の参加者が少なく、目標の参加者数は未達となったが、天体スケジュールチラシの見直しを行い、分かりやすいスケジュール案内をすることでスタードームまどかの来場者は前年比**117.2%**と増加した。今後も関係機関と連携し、観測会の設置場所や広報などを工夫し、少しでも参加者の増加につながるよう進めていく。



◆おおの山城大文字まつり
(10月24日)24日

春日市の星の館へ視察に行き、雨天時の運営について学んだことを活かし、市民星空観望会時に室内会場「星のひみつ基地」と称し2階の談話室を開放した。来館者同士で自由にゲーム（惑星ジグソーパズル・月面カルタ）等を楽しむことができ、雨天時でも来館者に天体に興味を持ってもらう環境を提供した。



◆星の館視察（春日市）



◆星のひみつ基地

（惑星ジグソーパズル・月面カルタ）



◆星空観望会の様子

ボランティア交流会

ボランティア交流会では、ボランティアと一緒に市民星空観望会運営のアイデアや問題点を収集でき、ボランティア同士はもちろん、職員とボランティアとの交流を深めるとともに、新人ボランティアのスキルアップを図ることができた。



◆ボランティア交流会



◆ボランティア養成講座



学校との連携

大城小学校4年生	164名（大70小94）	星空観望会
大城小学校ランドセルクラブ	54名（大6小48）	太陽のお話・太陽めがね工作
平野小学校	124名（大14小110）	太陽観測会
未来教室コンパス	7名	職場体験（望遠鏡操作、スタードームまどか案内）



◆ランドセルクラブ出前講座



◆大城小学校星空観望会



◆平野小学校太陽観測会

小・中学校と連携し、多くの子どもたちに望遠鏡を使った観望会や操作体験などを実施した。学校での参加をきっかけに、ほかの天体イベントに参加したという声もあり、今後も内容を工夫しながら学校との連携・協力を深め青少年育成に取り組んでいく。



5. コミュニティ活動応援ファンド事業

令和5年度
事業計画

- Plan -

- ▶ 他団体と連携及び情報共有を行いながら新規団体の発掘を行う。
- ▶ ファンド事業報告会を開催し、市民の地域活動への参画を図る。

事業報告

- Report -

【令和5年度】

申請件数

目標5件

5件

前年7件

達成率 **100%**

	R5年度申請数（前年度）
第1期（R4年12月募集）	4 事業（5 事業）
第2期（R5年5月募集）	1 事業（2 事業）

福津市「未来共創センタ

ーキッカケラ

ボ」と宗像市「人づくりでまちづくり事業補助金」審査会を視察し、他が実施する助成金事業について学んだ。これまでの視察や学びを活かし、昨年度の申請書の見直しに続き今年度は報告書の見直しを行い、ファンド助成団体にとってより活用しやすい事業となるよう努めた。また新たな取り組みとして、令和6年度第1期採用団体に決定通知書交付式を行った。交付式では決定通知書の交付・事業説明の後、団体同士の交流の時間を設けた。これまでは助成採用団体に対して各担当者が個別に事業説明を行っていたが、一斉に説明を行うことで全ての団体に同一の説明ができたほか、団体に対してより質の高いサポートを行うことができた。また交流会では団体同士が繋がり悩みや疑問を語り合う有意義な時間となった。

【令和6年度採択事業決定通知交付式（交流会）】令和6年3月3日（日）



報を提供し、 った。	団体7名、 地域の活動団体に対して資金面	101件
	周知啓発	209件
	助成金情報提供	42件

ファンド事業団体紹介



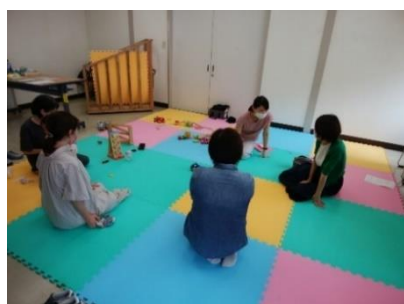
団体：スペースドリーム大野城（申請 3 年目）



団体：おやのかい MIRAI（申請 2 年目）
事業名：子育てで少し悩まれている保護者のサポート事業



団体：NPO法人 route（申請 2 年目）
事業名：安全なまち大野城事業



団体：スマイルフレンズ（申請 2 年目）
事業名：ママ友サポート&子育て応援事業



団体：大野城傾聴ボランティア「ダンボ」（申請 1 年目）
事業名：傾聴活動

ファンド事業令和 4 年度実施報告会開催について

第 1 部では令和 4 年度にファンド事業を活用した 5 団体の報告会を行ったほか、第 2 部では地域団体・企業・学生ボランティア団体・行政が参加した地域活動についてのトークイベントを実施した。結果として昨年度の **1.7** 倍となる **59** 名の参加者があり、アンケートでは報告会の内容について「良かった」「やや良かった」の回答が約 **9** 割と、参加された方の市民活動に対する関心が高いことがわかった。報告会を通して市内外問わず多くの方に団体の活動やファンド事業を周知することができた。



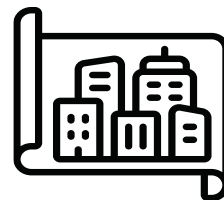
◆報告会入口にて
団体紹介ポスター設置



◆第 1 部 事業実施報告会



◆第 2 部 トークイベント



6. まちづくり推進事業

令和5年度
事業計画

- Plan -

- ▶先進団体の視察及び研修を実施し、中間支援組織として職員のスキルアップを図る。
- ▶各コミュニティにおける地域ニーズに沿った事業の実施。
- ▶コーディネーターとして市民・地域団体を支援することで、まちづくり推進に努める。

事業報告

- Report -

視察

月日	場所	人数	内容
5/9	NPO ボランティアセンター あすみん	5 名	NPO 法人設立説明について
5/12	春日市星の館	5 名	天体事業運営について
6/1	福津市キッカケラボ	6 名	市民活動センターの運営・広報について
6/1	メイトム宗像	6 名	助成金審査会見学
11/21	大野城市まなびの宿福岡	9 名	施設管理について



◆先進団体への視察

職員の担当やスキルに合わせて視察を実施した。類似した団体の行う事業を実際に見学し、他団体への支援方法や関係機関との関係性などを聞くことができ多くの学びがあった。市民活動を支援する中間組織として自分たちの役割などを再認識することができ、多様化する地域課題に対応できるよう、今後も研修を重ねていき、職員のスキルUPを図っていく。

コミュニティ運営協議会との共働

◆【南地区】



・まちづくり計画策定

令和4年12月～令和5年8月作業部会9回

事前打ち合わせ 令和5年4月と8月に2回 2名参加

◆【中央地区】



・中央地区文化フェスティバル（11月17日）

6団体出店サポート

◆【東地区】



・まちづくり計画策定

令和5年4月～12月（令和5年2月開始）

策定委員会5回（月1回）2名参加

・東コミキッズフェスタ共働開催（11月）



◆【北地区】



・御笠川フェス 2023 令和5年8月20日（日）

宮添公園横にて太陽観測実施 天気に恵まれ 156名参加

・令和5年10月9日（月）MADOKA れくスポ祭

スタードームまどかを開放 45名参加

- ・ 南地区・東地区のまちづくり策定委員会に参加したことで、それぞれの地区の特性や課題の抽出及び関係性の構築をコミュニティ運営協議会、行政、地域の方と共有することができた。またコーディネーターの中村氏、宮田氏のスキルを間近で学ぶと共に、報告書の作成や板書など職員の人材育成につながった。
- ・ コミュニティ運営協議会主催の様々な行事やイベント時に協力・参加することで、職員が地域の特性を知り、
関係性を保ちながらまちづくりに寄与することができた。



7. 相談・養成支援事業

令和5年度
事業計画

- Plan -

- 地域活動相談会を開催する。
- 地域で活動している人や団体の活動活性化を図るため、アドバイスや支援を行う。
- NPO設立についてなどの専門的な相談に対応できるようスキルアップ研修を行う。

事業報告

- Report -

団体相談
目標10件

19件

達成率 **190%**

個人相談
目標10件

7件

達成率 **70%**

まちづくり相談会の様子

【まちづくり相談の主な内容】

- ・総合学習の中でボランティア活動についての説明をしてほしい
- ・イベント時の協力団体の紹介
- ・共働できる団体の紹介

まちづくりに関する相談会

月日	概要
6/19	ファンド実施報告会
7/5	プラットホーム連絡会
8/26	南コミマルシェ



◆まちづくり活動に関する相談会

相談件数に関しては個人の相談件数は未達となっているが、コロナ禍があげ地域活動が活発化してきたことにより、団体からの相談が増加した。

「まちづくり相談会」では地域活動に興味のある4名の相談者に対して、人集めや資金面に関してアドバイスを行った。また「地域活動団体紹介カード」を各コミュニティセンターに設置し、活動団体を広く紹介することで中間支援組織としての役割を遂行した。



◆地域活動団体紹介カードを4コミに設置

市内で活動している団体や地域の情報をHP、SNS、コミュニティ通信等メディアごとの特性に合わせて発信したことで幅広い世代に情報提供することができた。またパートナーシップ活動支援センターについての記事を市広報誌や、フリー雑誌に掲載したことで、相談件数が**46**件（前年42件）と増加し「まちづくりに関する相談窓口」であることを広く周知することができた。

NPO法人設立についてなどの専門的な相談に対応できるよう「NPO法人設立模擬説明会」を職員向けに開催しスキルアップを図った。

「ボランティアコーディネーション力検定」3級取得

「ボランティアコーディネーション力検定」3級では多様化する地域課題や市民ニーズに対するボランティアの育成・支援などを学ぶことができた。

新たに**4**名が合格し、市民活動のコーディネーターとして職員の意識向上とスキルUPを図ることができた。



8. 情報発信・提供事業

令和5年度 事業計画 - Plan -

- ▶効果的な情報発信をおこなうため、既存及び新規の情報ツールを有効的に連携させ、適切なタイミングで発信する。
- ▶情報収集を積極的に行い、地域のニーズに合った情報を提供する。
- ▶進化する情報ツールに対応し網羅的に発信するため、職員のスキルアップを図る。

事業報告 - Report -

更新回数（）は前年度

NEW!!

法人HP

目標180回

10,007pv

170回

前年206件

達成率**94%**

Facebook

目標100回

161回

前年124回

達成率**161%**

LINE

目標20回

25回

前年65回

達成率**125%**

Instagram

目標100回

265回

令和5年度より運用開始

達成率**265%**

法人ホームページは目標更新回数未達であったが、よりタイムリーに、多くの方に情報発信するため、令和5年度よりInstagramを導入しフェイスブックと連携するとともにLINEの発信頻度について見直しを行った。また市報イベント情報・まどか号デジタルサイネージの活用を開始し情報発信ツールが増えたことで、より多様な層へのタイムリーな情報発信につながった。

情報発信について

- ・区、地域のイベントや市民活動団体の活動について積極的に取材を行ったことで、昨年度に比べてよりニーズに合った情報の提供を行うことができた。
- ・広報研修に参加し、広報の効果や実践的な手法についてのスキルアップを行った。



◆LINE

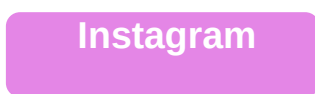


◆Instagram



◆SNS チラシ

CHECK!!



調査及び研究事業

9. 買い物代行「ごきげんお届け便」

令和5年度 事業計画

- Plan -

- ▶事業の効率的な運営を図るための検証を行う。
- ▶令和4年度に引き続き、利用者の満足度向上及び利用促進を図るために、利用者を対象にしたアンケートを実施する。
- ▶「ごきげんお届け便」とは別に新たな買い物支援事業の一つとして「買い物支援ガイドブック（仮）」を完成させる。

事業報告

- Report -

新規利用登録者数

目標25名

31名

前年28名

達成率**124%**

利用者総数

目標148名

154名

前年123名

達成率**104%**

利用注文数

目標600件

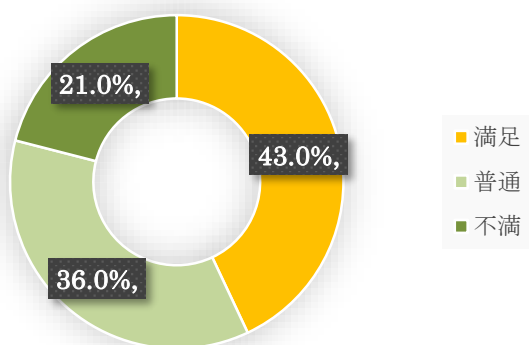
1,006件

前年722件

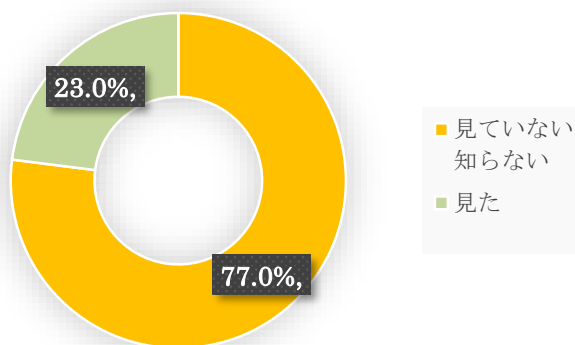
達成率**168%**

【アンケート結果】

Q お届け便の満足度について



Q ガイドブックについて



カタログの印刷方法を見直し、印刷にかかる費用を**48%**削減することができた。また地域包括支援センターと連携し、対応の難しい利用者も大きなトラブルなく活用してもらうことができた。またアンケートの結果では**79%**（約8割）の利用者が現状に不満がなく、利用者満足度は非常に高いことがわかった。

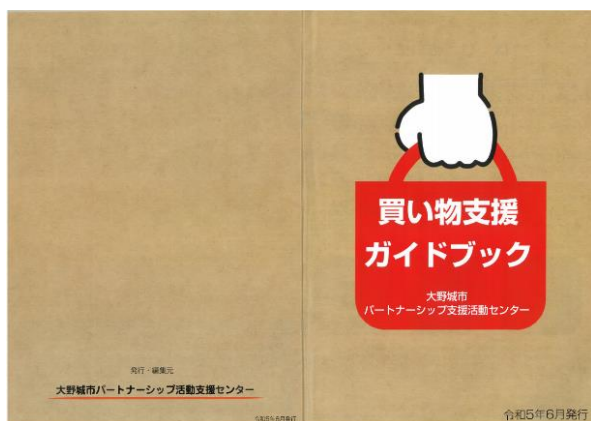
買い物支援事業の充実

令和5年6月

買い物支援ガイドブック完成

NEW!!

ごきげんお届け便事業以外の新たな買い物支援の一つとして『買い物支援ガイドブック』の作成にあたり、地域の企業 **216** 件を訪問し聞き取り調査を実施した。



- ・ガイドブック **1,000** 部発行
 - ・買い物支援協力店ステッカー **100** 枚発行
 - ・協力店舗 **60** 店舗
 - ・令和5年7月に配架
- 配布先☐掲載店舗、各コミュニティセンター、各公民館
地域包括センター、市役所、お届け便利用者
使ってバンク利用者、来館者



市広報、コミュニティ通信及びHPに掲載したことで、市民や関係機関からの反響が大きく「とてもありがたい」等の声を直接聞くことができた。発行に当たり地域企業・事業所の協力を得られたことと、買い物困難者の選択肢が増えたことは大きな成果であった。お届け便利用者のアンケート結果では活用した方はまだいなかったが、「見た」との回答が **23** %あり、少しずつではあるが認知されていることが分かった。次年度も買い物支援の選択肢の一つとして利用が増えるよう周知をしていく。

調査研究

市内のスーパー、移動販売店の調査を実施。配達状況やネットスーパーに関して聞き取りをおこなった。その中で、移動販売車を実施している企業と情報や課題を共有し協議を重ねた。今後も買い物支援の課題解決のため調査研究を継続して行っていく。

10. コミュニティセンターの管理運営及び施設の貸出事業

令和5年度 事業計画

- Plan -

- ▶ 情報発信方法を検討し周知強化を図り、稼働率の増加につながる取り組みを行っていく。
- ▶ 新しいサービスの提供を行い、利用者の満足度を上げ、地域に密着した「館づくり」を行う。
- ▶ 災害時を想定した実地訓練を行い、職員の対応力の向上を図る。

事業報告

- Report -

利用者数 目標420,000人	2階稼働率 目標28%	クレーム件数 目標0件
450,813人 前年405,727人 達成率 107.3%	31% 前年25.9% 達成率 +3%	0件 前年0件 達成率 100%

【アンケート結果】

	南	中央	東	北	合計
設備の整備状況 (非常に満足・やや満足)	81.4%	86.9%	89.9%	89.0%	86.4% (前年： 80.1%)
職員の接客態度 (非常に満足・やや満足)	84.4%	86.3%	86.6%	90.6%	87.0% (前年： 84.5%)



◆館内装飾（ひな祭り）



◆館内装飾（節分）



◆館内装飾（クリスマス）

利用者の安全性・快適性確保のため日々の点検や災害時に備えた発電機操作訓練を実施し、清掃業者や警備会社との密な情報共有を行い、安全で安心して利用できる場の提供ができた。コミュニティセンターの維持管理業務を遂行した結果、利用者アンケートで設備の整備状況において「非常に満足・やや満足」が4コミュニティセンター平均 **86.4** %と前年（80.1%）を大きく上回る結果となった。職員の接客においても利用者の視点に立った公平で迅速・的確なサービス向上を常に意識し、きめ細やかな対応を行った結果「非常に満足・やや満足」が **87** %となり、利用者の満足度向上につながった。

また落雷による停電時には地域行政センターと連携し、迅速・的確な対応を行うことができ、大きな支障をきたすことなく開館することができた。

センターを活用したイベント

未就学児の親子向けの読み聞かせイベントや夏休みを利用したシールラリーを各コミュニティセンターで実施した。また、中学生による窓ガラスアート制作では、関わった生徒たちが家族や友達を連れて来館するなど、より身近で気軽に立ち寄れる地域の施設としてコミュニティセンターの活用を促進することができた。



◆中学生によるガラスアート(中央コミ)



◆夏休みこどもシールラリー



◆絵本のおはなし会（東コミ）



◆絵本のおはなし会（北コミ）

その他目的を達成するために必要な事業

11. 自主事業

令和5年度 事業計画

- Plan -

- 財源確保につながる新規事業を構築する。
- 職員のスキルを活かした事業やイベントを実施する。

事業報告

- Report -

新規事業に向けたプロジェクト

月日	内容
	NPOの基礎講義 貿易ゲーム
	する解説・ニーズや法人資源の洗い出し
	かれて出したアイデアの整理
	上げのための準備・役割分担など
	に向け出た課題整理。会費の確保に向けた整理
	まとめ

プロジェクトの目的でもある、参加したみんなの豊富な知識や経験談などを聞くこと

アドバイザー：NPO 法人とねりこの今村氏、三島氏

新規事業スタートという結果には至っていないが、このプロジェクトの目的でもある、参加したみんなで法人の課題に取り組めたことやこの協議を通して今村氏の豊富な知識や経験談などを聞くことができ、法人の成長のために得られたもの

自主事業

【生涯学習講座系】 **4** 事業 **62** 名

【コミュニティセンター利用促進】 **17** 事業

ボランティア参加 **32** 名

様々な事業やイベントをコミュニティセンターで実施することで、コミュニティセンターがまちづくりの拠点となり、地域活動参加への促進につなげることができた。また企業や地域の団体と連携した事業の実施により、幅広い世代に対応した内容のイベントを実施することができた。ファンド事業助成団体やサロンボランティアに参加を促し、活躍の場の提供や資金集めのアドバイス等の支援を行った。次年度は事業の目的を明確にし、多様化する課題やニーズに沿った内容のイベント等を検討する。



◆カードでつくる子どものまち

12. 人材育成

令和5年度 事業計画

- Plan -



- ▶ 外部アドバイザーによる研修などを通して、組織力の強化を図る。
- ▶ 人事評価制度と連携した育成計画を策定する。
- ▶ 職員一人一人の特性を活かし、地域にて活躍する場を提供する。

事業報告

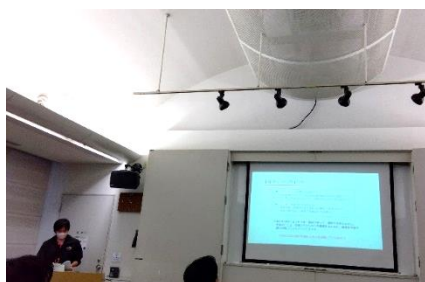
- Report -

外部研修

18 件

内部研修

9 件



◆ NPO 法人設立 模擬説明会

名称	令和5年度取得	合計
防災士	0 名	6 名
ボランティアコーディネーション力検定3級	4 名	5 名

- ・ 利用者の安全を守る AED や防災、可搬型発電機への切替えなど緊急時に備えた研修を実施し、施設管理における知識と技術の向上を図り、安心して利用ができる施設づくりに取り組んだ。
- ・ 市民活動やコミュニケーションに関する研修にも多くの職員が参加し職員の資質向上につながり、多様な地域課題に関する相談などにも柔軟に対応することができた。
- ・ 内部研修では NPO 法人設立説明会実施に向けた模擬練習を行い、地域団体等に向けたコーディネーターとしてのスキルを高めることができた。
- ・ 新職務目標シート、能力評価シートをより実務的なものに見直しを行い上期より運用したことで、より効果的な人材育成計画を遂行することができた。



◆ 地域のリーダーを目指す
助成応援研修



◆ ボランティアコーディネーション力
検定3級 令和5年度取得者



◆ ファンド報告会での司会

13. 自主財源の確保

令和5年度 事業計画

- Plan -

- ▶新たな会員や寄付金を得るため、地域の情報収集に努め積極的に交流の場に参加し、さまざまな団体や企業とつながりを持つ。
- ▶イベントでの物販や職員による講座を行い、活動の場を広げることで法人の周知や自主財源の確保に務める。
- ▶安定した自主財源の確保に向けて、視察、調査、研究を行う。

事業報告

- Report -

収益内訳

自動販売機	1,217,806
イベント収益	188,920
寄付金、その他	157,438
会 費	537,000

合計

¥ 2,101,164

(前年度 ¥ 3,105,140)

- ・他団体から講師を招き、新たな収益事業の構築に向けてチームを作り、年間を通して調査研究を行いながら実現できる収益事業を学んだ。
- ・給与明細の電子化・税金のダイレクト納付・電子帳簿保存のシステム対応を可能にし、効率性の向上やペーパーレスによるコスト削減で収益の最大化に努めた。

会員獲得 () 内は前年度

個人正会員

34 名
(36 名)

団体正会員

30 団
(30 団体)

個人賛助会員

101 名
(101 名)

団体賛助会員

13 団体
(13 団体)

- ・会員向け会報誌「つなぐ」でイベントの案内や活動の報告を発信した。会員に定期的に発行することで支援者との継続的なつながりを図った。
- ・新規会員の獲得や寄付収益につなげるため、イベントでのPR活動や研修会への参加で、様々な団体に「共働のまち大野城」を知ってもらえることができた。また、「ふくおか地域づくり活動賞」に応募したことで、他市に対しても大野城市の取り組みや私たちの活動を知ってもらえる機会となり、準グランプリの受賞で更に認知度の向上が図れた。HPを見た企業からの新たな会員加入もあり、認知度が上がっていると感じられた。

表彰・受賞

令和5年度（第16回）「ふくおか地域づくり活動賞」 準グランプリ受賞

1月27日（土）に開催されました「ふくおか地域づくりフォーラム」にて福岡県内で様々な地域づくり活動に取り組む団体の中で、特に活動状況が顕著である団体を表彰する「ふくおか地域づくり活動賞」の【行政との協働部門】で準グランプリ（協議会会長賞）を受賞しました。

受賞理由

地域課題を解決するための活動支援や情報提供などを行い、市民と行政とのパートナーシップによるまちづくりに寄与することを目的に取り組んでいます。市の指定管理者として様々な事業を展開し、成果目標をきちんとPDCAサイクルで回している点が高く評価されました。



プレゼンテーションでは、指定管理事業の「市民公益活動促進事業」や「買い物代行『ごきげんお届け便』」などについて説明し、多くの皆様に関心を持っていただくことができました。今後も「人と地域をつなぐ」をスローガンに、地域の皆様と行政とともにまちづくりに取り組んでまいります。





NPO法人共働のまち大野城PRキャラクター